

## 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か 第2回

## □「スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）」に関する学び全体のアウトライン

## 1. 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）

2. スピリチュアル・ライフと 信者の生活ルール
3. スピリチュアル・ライフと 聖霊
4. スピリチュアル・ライフと 交わり
5. スピリチュアル・ライフと 弟子
6. スピリチュアル・ライフと 倫理
7. スピリチュアル・ライフと 神の導き
8. スピリチュアル・ライフと 霊的戦い

## □「聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）」のアウトライン

1. イントロダクション
2. 6つの説明
3. 霊的であることの3つの特徴
4. 神の深み（I コリ 2：9～3：4）
5. 幼子と成人の比較（ヘブル 5：11～14）

## □前回の内容

## 1. イントロダクション

## (1) 霊的であることには、3つの要素がある

- ① **新生**・・・救われていることである。救われていない人は、霊的な生き方をするとはできない。救われて新生した者だけが、霊的な生き方をするができる。
- ② **聖霊**・・・信者に霊的な生き方をするための力を与えるのは、聖霊である。「スピリチュアル（霊的）」という表現自体が、「ザ・スピリット（神の霊、聖霊）」との関係を示している。
- ③ **時間**・・・霊的であることの3つ目の要素は、時間である。信者が新生してから霊的に大人になるまでには、時間がかかる。信者になってすぐ、「**霊的な人**」（I コリ 3：1）になれるわけではない。

## (2) 「スピリチュアル（霊的）であること」が含む重要なコンセプト

- ① **成熟**である。成長して大人になること、そしてさらに円熟に向かうこと。
- ② 身体や感情は、成長して大人になる。生まれたばかりの赤子がすぐに身体的、感情的に大人になるわけではない。同様に、霊的に新たに生まれた信者も、

霊的に大人になるには、時間がかかる。

- (3) 「スピリチュアル（霊的）であること」と「スピリチュアル・ライフ」の定義
- ① スピリチュアル（霊的）であるとは、**聖霊との関係において成長すること**である。
  - ② スピリチュアル・ライフとは、「**霊的な人**」になるための生き方、そして「**霊的な人**」としてふさわしい生き方をして、さらに成長し、円熟を目指す生き方である。

## 2. 6つの説明

### (1) 信者になったばかりの人

- ① 新しい信者は、霊的な知識や経験をまだ習得していない。そのための時間が、これから必要。信者になったばかりの人で、「霊的である」と呼ばれる人は、いない。
- ② 信者になったばかりの人でも、聖霊の満たしを受けることは可能である。
- ③ 信者になったばかりの人は、「キリストにある幼子」（I コリ 3：1）である。

### (2) 成熟

- ① 信者となって長い時間がたったとしても、霊的に成熟していない、つまり大人になっていない人もいる。それは、たしかに長い時間を信者として過ごしてきたが、聖霊に自分を明け渡し、聖霊の支配に服する、ということをしてこなかったからである。
- ② ①のような信者は、「肉的な人」（I コリ 3：1）と呼ばれる。
- ③ 霊的に成熟する、つまり霊的に大人になるためには、時間が必要であると同時に、「聖霊に明け渡すこと」が必要である。

### (3) 成長の段階

- ① 成長には、いくつかの段階がある。乳児、幼児の時期から、青少年の時期を経て、大人になる。大人になってからも、いくつかの段階を経て、老成に向かう。信者としての成長も同じである。聖霊との関係において成長する中で、いくつかの段階を経ていく。
- ② パウロの書簡の中では、「霊的である」という用語は、新しい信者には使われない。その用語は、霊的に大人になっている信者について使用する。
- ③ 信者は、神のことばに従い、実践する中で、いろいろな経験をする。そのような時間を経て、「霊的である」という段階に達する。信者になってすぐに霊的な大人になるわけではない。いろいろな経験をする時間が必要である。また、霊的に大人になったからといって、それで成長が止まるわけではない。さらに成長し、円熟に向かう余地がある。

## (4) スピリチュアル・ライフの領域

- ① スピリチュアル・ライフにおいては、信者はメシアの律法に従って生活する。
- ② メシアの律法は、多くの領域に関わる。信者の人格形成、家庭生活、教会生活、社会生活（特に職場や事業において）、市民生活など。
- ③ よって、スピリチュアル・ライフの領域は、祈りや礼拝の時間のことではない。②に示すような多くの領域から成る。

## (5) 後退

- ① 信者は、ある領域では聖霊にゆだねた生活をしながら、他のある領域では後退してしまう、ということがある。
- ② 聖書はそのような信仰の後退について、「押し流される」（ヘブル 2：1）、「不信仰の悪い心になって、生ける神から離れる」（ヘブル 3：12）というような表現をしている。

## (6) 幼子である期間

- ① ヘブル 5：12 「年数からすれば」・・・霊的に大人になるためには、一定の年数が必要である。1年程度では短い。
- ② I コリ 3：1～3・・・コリントの教会は、パウロの第2次伝道旅行により形成された教会。そのとき、「私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物は与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。」（1節）パウロが「コリント人への手紙」を書いたのは、それから4～5年経ってからであった。パウロは2節で、「実は、今でもまだ無理なのです」と書いている。パウロは、コリントの信者たちが、時間の経過からすれば、霊的に大人になっていてよい時期にきているのに、「今でもまだ」としている。
- ③ よって、幼子である期間は、4～5年と推定される。

## 3. 霊的であることの3つの特徴

- (1) 霊的であることは、信者であることの証明である・・・信者であることの証明は4つの分野で現れる
  - ① メシアに似た者とされていく
  - ② 神のみことばについての知識を身につける
  - ③ 態度・雰囲気において、神への感謝にあふれ、兄弟姉妹との一致
  - ④ 言動において、善と悪を見分ける
- (2) 霊的であることは、教会での交わりに現れる・・・互いに交わりを持ち、皆の益となるために賜物を用いて仕え合う
- (3) 霊的であることは、その人の家庭に現れるであろう・・・妻は夫に従うようになる、また夫は妻の必要を理解して妻への愛を現わすようになる

## □本日の内容

## 4. 神の深み（I コリ 2：9～3：4）・・・この箇所から、5つのポイントを学ぶ

## (1) 神の啓示は、今や書かれたことばを通して、信者たちに与えられている

しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に浮かんだことのないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。（I コリ 2：9）

## ① イザヤ 64：4 の引用

- ② 旧約聖書ではまだ啓示されていなかったことがあった。それが今や啓示され、「備えてくださった」＝福音者や書簡の形で書かれたことばとなり、「神を愛する者たち」＝信者たちに、与えられている。

## (2) 書かれたことばを読んで理解できるのは、聖霊が照明の働きをしてくださるから

それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかに、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにだれも知りません。（I コリ 2：10～11）

- ① 「神は私たちに御霊によって啓示してくださいました」、神は新約の預言者たちに啓示を与え、預言者たちはその啓示を書かれたことばとして残した。そして、聖霊が私たち信者のために、書かれた神のことばを照らし、私たち信者に理解させてくださる。
- ② 聖霊は神の霊であり、聖霊は「神の深み」（the deep things of God）を知っておられる。
- ③ 神のことばの意味を信者の心や思考の中に照らし出す聖霊の働きは、神学上「照明」と呼ばれる。

## (3) 聖霊は信者の内に住んでおられる

しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのです。（I コリ 2：12）

- ① 「私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました」・・・信者は信じたときに聖霊を受けた。そして聖霊が信者の中に住んでおられる。
- ② よって、信者が進んで受け取ろうとするなら、内住の聖霊から神の深みについて教えてもらうことができる。12節では、神の深みを、「神が私たちに恵みとして与えてくださったもの」と言っている。

## (4) 神の知恵は書かれたことばの中に隠されている

それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。(I コリ 2:13)

- ① 「それについて語るのに」・・・「それ」とは、神が私たちに恵みとして与えてくださったもの、神の深み。それは、書かれた神のことばの中に隠されている。
- ② 「私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います」・・・人間の知恵によらずに、聖霊の照明の働きによって理解する
- ③ 「その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです」→ (直訳)「**霊的なことばを霊的な事柄に突き合わせるのです**」
  - 「霊的なことば」とは、信者が書かれた神のことばを読んだときに、聖霊の照明の働きによって、そのことばの意味が信者の心や思考の中に照らし出されることを指す。これが「御霊に教えられたことば」である。
  - 信者が「神の深み」を理解するためには、「霊的なことば」を受け取るだけでなく、それを自分の生活の中で起きる様々な「霊的な事柄」に突き合わせ、適用していくことが必要である。
- ④ 神がご自身の知恵を信者に明らかにしてくださる方法は、今や、神の現れや幻によるのではない。神の知恵は、書かれた神のことばの中に隠されている。そして、信者が神の知恵の内容を理解するのは、二つのステップによる。第一に聖霊に教えられ、第二に教えられたことを自分の生活の中で適用していく、というステップである。

## (5) 人は4つの種類に分けられる (一つは不信者、3つは信者)

## ① 生まれながらの人 (I コリ 2:14)

生まれながらの人は、神の御霊のことは受け取りません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができません。なぜなら、それらは、霊的に判別されるものだからです。(I コリ 2:14)

- 「生まれながらの人」・・・ギリシア語の直訳は、「魂的な人」。**【補足】**人間の非物質的部分は、6つの要素から成る。霊、魂、心、思考、意志、良心である。これらは互いに重なり合っていて、全く別物というわけではないが、霊は天との関係、魂は地との関係にある。
- 「生まれながらの人」は、新生していない人である。救われていない人、不信者である。聖霊の内住は、ない。

- その人は、「神の御霊のこと」は受け取ることはできない。「神の御霊のこと」とは、「神の深み」(I コリ 2:10) のことである。その人にとっては、そのようなことは愚かなことである。
- その人は、神の深みを理解することができない。「なぜなら、それらは霊的に判別されるものだからです。」・・・神の深みは、書かれた神のことばを読み、人間の知恵だけで理解されるものではない。聖霊の照明により、神のことばの意味が人の心や思考に照らし出されることが、まず必要である。それは「霊的なことば」と呼ばれる。そして、霊的なことばを受け取ったなら、それを信者が自分の生活の中で様々な霊的な事柄に適用して体験していくことが必要である。このようなプロセスは、生まれながらの人にはできない。その人の内には、聖霊がおられないからである。

② 霊的な人 (I コリ 2:15~16)

*霊的な人はすべてのことを判別しますが、その人自身はだれによっても判別されません。「だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。」しかし、私たちはキリストの心を持っています。(I コリ 2:15~16)*

- 霊的な人は、すべてのことを聖霊の照明を受けて判別する人である。導きを求めて、いろいろな人に尋ね回る必要はない。
- I コリ 14:37 によれば、霊的な人であれば、パウロが書いた書簡の内容は、「主の命令である」、すなわち神のことばであると判別できる。
- ガラ 6:1 によれば、霊的な人には、過ちに陥っている兄弟を柔和な心で正してあげる働き(回復の働き)をするよう命じられている。
- 霊的な人がすべてのことを判別することができるのは、16 節「キリストの心を持っている」からである。聖霊がその人の心と思考を照らし、あらゆる状況の中で何がキリストの思いと考えるのか、を教えてくれるということである。

③ キリストにある幼子 (I コリ 3:1~2)

*兄弟たち。私はあなたがたに、霊的な人に対するようには語ることができずに、肉的な人、キリストにある幼子に対するように語りました。私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。(I コリ 3:1~2)*

- 「幼子」、ギネピオスの原意は「まだ話せない人」、乳幼児を意味する。信者になったばかりの人で、まだ神のことばに通じていない人である。
- この用語の強調点は、弱さである。神のことばのうち「固い食物」はま

だ無理で、「乳」の部分のみ理解できる。「固い食物」とは、神の深みである。

- この弱さは、罪ではない。キリストにある幼子であることは、いけないことではない。私たち信者の誰もが、まずこの段階から信仰生活をスタートしたのである。
- 問題は、キリストにある幼子の段階から、霊的に大人になったのか、あるいは成長せずに止まってしまっているのか、である。後者が次の「肉的な人」である。

④ 肉的な人（I コリ 3：3～4）

*あなたがたは、まだ肉的な人だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるのですから、あなたがたは肉的な人であり、ただの人として歩んでいることにならないでしょうか。ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人は「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたはただの人ではありませんか。（I コリ 3：3～4）*

- 肉的な人は、神のことばの固い食物を食べることができるのに、そうしない人である。
- 肉的な人は、信者である。その人の内に聖霊が住んでおられる。よって、聖霊の照明を受けて、神の深みを知ることができるはずである。しかし、その人の罪の性質（聖書は、これを「肉」と呼ぶ）が妨げとなって、聖霊が十分に働くことができない状態にある。
- 肉的な人の特徴のひとつは、他の兄弟姉妹との一致が保てず、交わりができないことである。コリントの教会の信者たちがそうであった。
- 神のことばについての理解という点では、キリストにある幼子と同じ、固い食物は無理で、乳しか受けつけない。キリストにある幼子の場合、それは当然のことであり、何も問題ではない。しかし肉的な人の場合は、できるはずなのに、それをしようとしなない。それは問題である。
- 肉的な人は、「ただの人」のように歩んでいる。すなわち、信者でありながら、信者ではない人のように歩んでいる。肉的な人は、人生の生き方としては、見た目では生まれながらの人と何も変わらない。